

都市交通調査ガイダンス(案)と 総合都市交通体系調査の手引き(案) の構成比較

国土交通省 都市局
都市計画課 都市計画調査室
令和6年2月

都市交通調査ガイダンスの構成

- 都市交通調査ガイダンスでは、都市圏において都市交通マスタープランの策定以外を含めた幅広い取り組みへの活用を積極的に推奨するため、**都市交通マスタープランのみがアウトプットと捉えられる現手引きの構成、記載を見直す。**
- 調査実施・データ整備・公表関連を「**第Ⅱ部 調査実施編**」とし、都市交通マスタープランで行っていた現況分析・将来分析の検討や個別の計画・施策・取り組みの検討は「**第Ⅲ部 計画・施策等提案編**」へと分けて再編する。

<都市交通調査ガイダンス>

<総合都市交通体系調査の手引き（案）>

概説

本手引きについて

第Ⅰ部 導入編

- 都市を取り巻く状況と都市交通調査の必要性
- 都市交通調査が重視すべき視点
- 新たな都市交通調査の全体像
- 参考 街路交通調査に対する補助

第Ⅰ部 総合都市交通体系調査の意義と新たな展開

- 第1章 総合都市交通体系調査の必要性
- 第2章 総合都市交通体系調査の新たな展開
- 第3章 総合都市交通体系調査の結果の活用
- 第4章 街路交通調査の概要

第Ⅱ部 調査実施編

- 都市交通調査の調査体系の構築
- パーソントリップ調査の設計
- パーソントリップ調査の準備・実施
- パーソントリップ調査データの整備
- パーソントリップ調査データの基本集計
- データの公表・提供

第Ⅱ部 総合都市交通体系調査の実施方法

- 第1章 総合都市交通体系調査の企画・準備
- 第2章 実態調査等
- 第3章 現況分析
- 第4章 都市交通マスタープランの立案
- 第5章 予測評価手法
- 第6章 提案した計画・施策の達成に向けた取り組み
- 第7章 パーソントリップ調査データの活用

第Ⅲ部 計画施策活用編

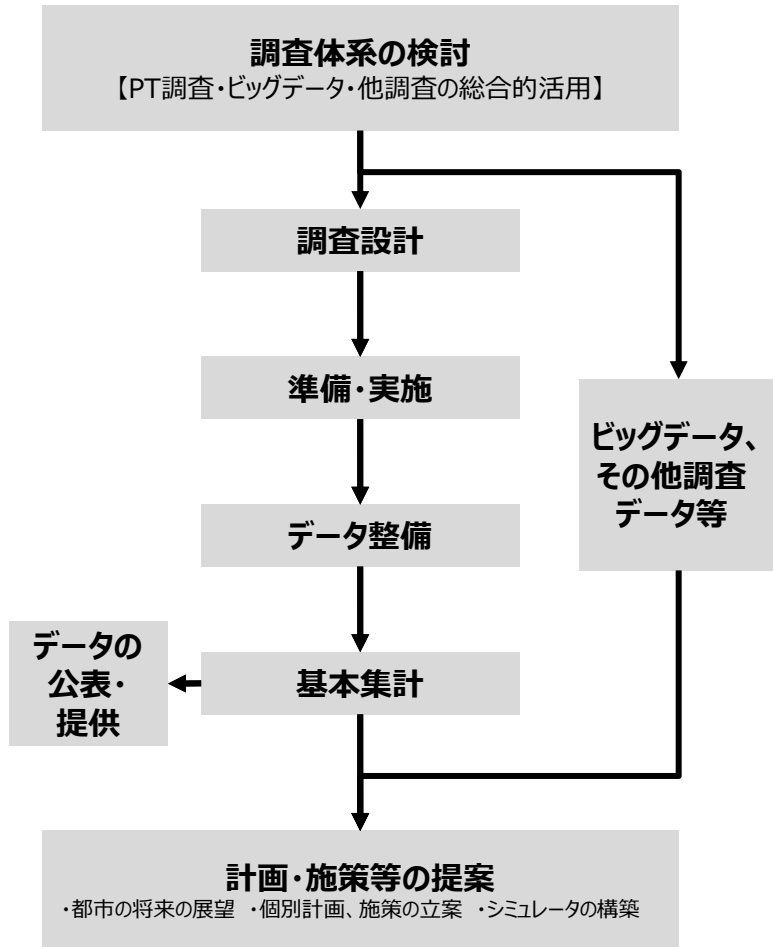
- 計画・施策検討における都市交通調査の有用性
- 都市交通の将来を展望する
- 個別の計画・施策・取り組みの検討
- シミュレーション

各項目の比較

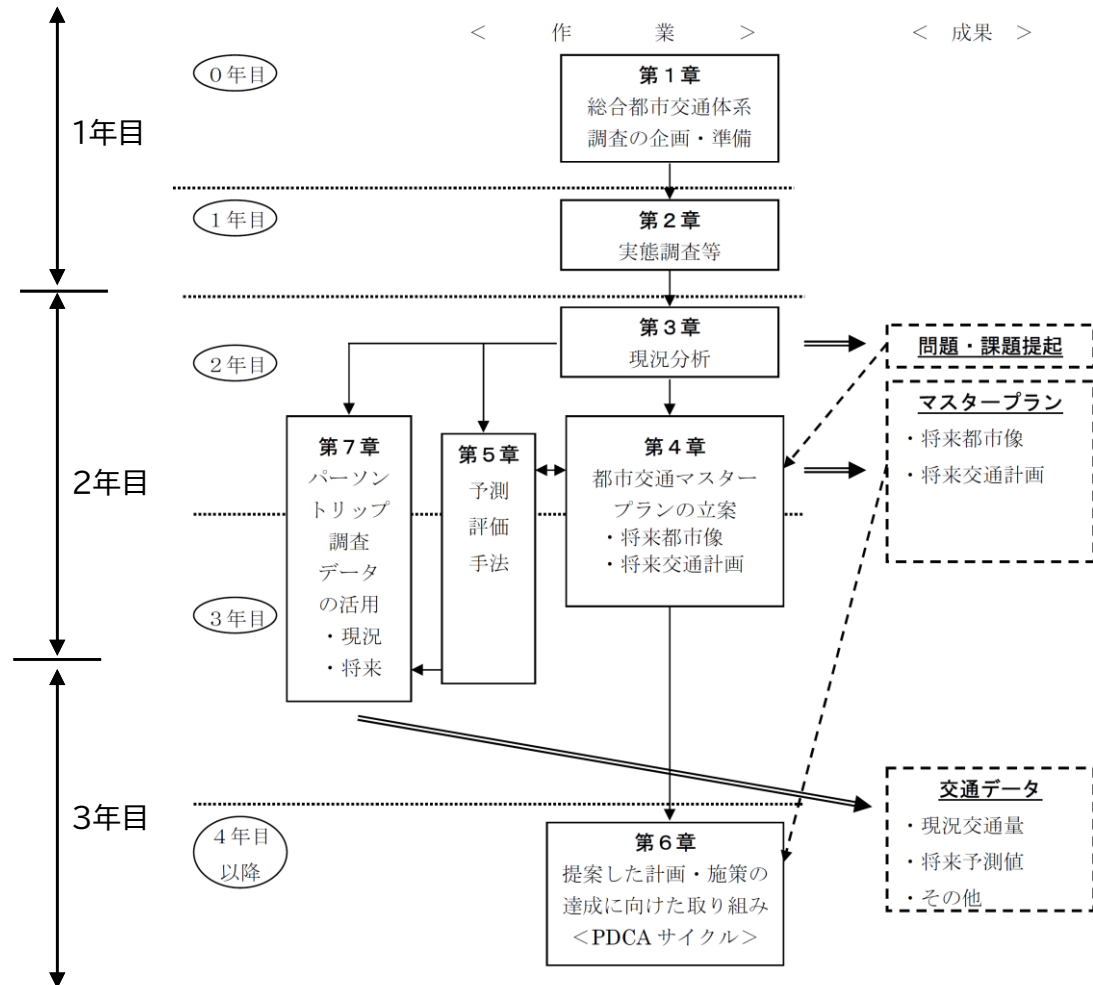
都市交通調査ガイドス (令和6年3月)	総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)	変更のポイント
概説	本手引きについて	
1. ガイドスの目的	1. 手引きの目的	
2. ガイドスの位置づけ		
3. 全体構成	2. 手引きの構成	
4. 都市交通調査とパーソントリップ調査		
	3. 手引きで用いる用語等について	
第I部 導入編	第I部 総合都市交通体系調査の意義と新たな展開	
1. 都市を取り巻く状況と都市交通調査の必要性	第1章. 総合都市交通体系調査の必要性	
(1) 急速な変化を遂げる人の移動	1-1. 都市交通における今日的な課題	
(2) 都市交通分野における近年の重点的な取り組み		近年の取り組みとして、コンパクト・プラス・ネットワーク、ウォカブルなまちづくり、公共交通リデザイン、新しいモビリティサービスの社会実装を追加
(3) 都市交通調査の必要性	1-2. 総合都市交通体系調査の必要性	
2. 都市交通調査が重視すべき視点	第2章. 総合都市交通体系調査の新たな展開	
(1) 多種多様に進化する都市交通調査	2-1. 成熟した都市型社会に対応した都市交通政策展開	都市圏に応じた多様な調査を推奨
(2) 施策評価に限らない、シミュレーション技術の多面的活用	2-2. 総合都市交通体系調査実施にあたっての新たな視点	昨今の動向をふまえ記載を充実
(3) 活動・場所・移動の一体的な把握		近年の活動把握の調査を後押し
(4) ビッグデータのまちづくりへの活用		昨今の動向をふまえ記載を充実
(5) パーソントリップ調査の品質確保と効率化の両立		
(6) オープンデータ化		社会的要請を踏まえ記載を充実
3. 新たな都市交通調査の全体像		
(1) 都市交通調査の流れ ※次頁参照	第I部 第3章. 総合都市交通体系調査の結果の活用	データ活用先として、都市交通マスタープランのみをアウトプットとはしない
(2) 都市交通調査の新たな視点との対応	3-1. 総合都市交通体系調査の主要なアウトプット	ため記載を削除
参考 都市交通調査に対する補助(街路交通調査費補助)	第4章. 街路交通調査の概要 ※第I部	

各項目の比較

都市交通調査ガイダンス (令和6年3月)



総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)



各項目の比較

都市交通調査ガイドンス (令和6年3月)	総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)	変更のポイント
第Ⅱ部 調査実施編	第Ⅱ部 総合都市交通体系調査の実施方法	
1. 都市交通調査の調査体系の構築	1-2. 企画・準備の必要性和検討事項	
(1) 調査体系の検討の必要性		
(2) 調査体系の検討		
2. パーソントリップ調査の設計	1-3. 企画・準備段階での検討内容と留意事項	標準化しつつ、柔軟な調査ができるように記載を拡張
(1) 調査設計の視点		
(2) 調査対象範囲の設定		標準仕様の活用を記載、都市圏の課題に応じた項目追加も推奨、活動把握する調査の取り組み促進
(3) 調査項目の検討		
(4) ゾーン区分の設定		
(5) 抽出率の設定		把握したい指標に応じた柔軟な調査設計を可能とする
(6) 調査手法		オンラインの積極的活用、オンライン先行型調査の紹介
(7) 特定地区を対象とした調査		
(8) 補完調査・付帯調査の設計	※第2章 2-2. スクリーンライン調査の実施 2-3. 付帯調査の実施	Webモニターの活用例について記載
(9) 広報計画の検討		
(10) 調査スケジュールと検討体制		
3. パーソントリップ調査の準備・実施	第2章 実態調査等	
(1) 調査実施に必要な手続き	2-1. 交通実態調査	
(2) 調査対象者名簿の作成		各種マニュアル類、調査物件のモデル、国が開発したWeb調査システムの活用等による効率化を推奨
(3) 調査票・調査物件の作成		
(4) Web調査システムの準備		
(5) 調査の実施・管理		
(6) 問合せ対応の実施		

各項目の比較

都市交通調査ガイドンス (令和6年3月)	総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)	変更のポイント
第Ⅱ部 調査実施編	第Ⅱ部 総合都市交通体系調査の実施方法	
4. パーソントリップ調査データの整備 (1) データ整備の概要 (2) データ整備の流れ (3) エディティング (4) コーディング (5) データ入力 (6) システムチェック (7) 拡大係数の検討 (8) マスターデータ作成 (9) 関連データの整備		データの品質確保に向け標準的な流れを記載
5. パーソントリップ調査データの基本集計 (1) 基本集計のねらい (2) 基本集計の項目		オープンデータ化の考え方を踏まえ、具体的な集計内容を記載
6. データの公表・提供 (1) データの公表・提供の方法 (2) データ分析などの必要なゾーン図の提供	第7章 パーソントリップ調査データの活用 7-1. 調査データのさまざまな活用 7-2. 調査データの有効活用に向けた活動	オープンデータ化の考え方を踏まえ、具体的な公表・提供方法を記載 都市交通調査プラットフォームの活用にも言及

各項目の比較

都市交通調査ガイドンス (令和6年3月)	総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)	変更のポイント
第Ⅲ部 計画施策活用編		
1. 計画・施策検討における都市交通調査の有用性 2. 都市交通の将来を展望する		
(1) 検討の流れ (2) 検討方法	第Ⅱ部 第3章 現況分析 第Ⅱ部 第4章 都市交通マスタープランの立案	現況分析、将来動向分析に基づいて将来動向や都市づくりの方向性を検討 従来の都市交通マスタープランと検討内容は類似するが、固定化されたイメージに捉われないようにマスタープランという固有名詞は用いない(コラムにて詳細を記載)
3. 個別の計画・施策・取り組みの検討		
(1) 交通と土地利用の連携 — 立地適正化計画への活用 — (2) マルチモーダルな総合交通計画 — 都市・地域総合交通戦略への活用 — (3) 公共交通の強化・再編 — 地域公共交通計画への活用 — (4) 道路網の再構築 — 都市計画道路の見直しへの活用 — (5) ウォークブルなまちづくり — 地区交通計画・社会実験への活用 — (6) 乗り継ぎ拠点の形成 — 駅まち空間・モビリティハブ — (7) 様々な交通手段の利用促進の取り組み (8) 交通インフラの事業評価 (9) 大規模開発に伴う交通影響評価 (10) 防災対策の検討	第Ⅰ部 第3章 総合都市交通体系調査の結果の活用 3-1. 総合都市交通体系調査の主要なアウトプット 3-2. 都市計画行政におけるアウトプットの活用 第6章 提案した計画・施策の達成に向けた取り組み 6-1. 都市・地域総合交通戦略の検討、策定 6-2. その他の取り組みの内容 6-3. 都市計画区域マスタープランへの反映 6-4. 計画の実現化のための関係者の参画 6-5. 計画策定後のフォローアップ(PDCAサイクルの導入)	パーソントリップ調査データの多様な活用場面に関して、従来よりも詳しく解説するとともに、各種計画や具体の個別施策への反映先を記載

各項目の比較

都市交通調査ガイダンス (令和6年3月)	総合都市交通体系調査の手引き(案) (平成19年9月)	変更のポイント
第Ⅲ部 計画政策活用編		
4. シミュレーション	第Ⅱ部 第5章 予測評価手法	
(1) シミュレーション活用の意義	5-1. 予測評価の目的	
(2) シミュレーション活用において留意すべき事項	5-2. 予測において留意すべき事項	
(3) 都市圏の人の動きのシミュレーション手法	5-3. 都市交通マスタープランのための将来交通 需要予測の手順 5-4. 個別計画・施策検討のための予測手法	アクティビティベースモデルの記載は 新規
(4) シミュレーションを活用した人の動きのデータ生成	5-5. 既存調査データの有効活用 5-6. 評価手法	アクティビティベースモデルを活用し たデータ生成方法を新規で記載
(5) そのほか多様なシミュレータの活用		
参考 関連資料一覧		